

同友ごてんば速報版

県事務局御殿場支部担当 佐藤 靖真

支部設立24周年記念例会

・・・・・・・・記念講演・・・・・・・・

『地産・地商・地消が中小企業のこれからを切り開く』
～ “地獄のサイクル” から “天使のサイクル” へ ～

(講師) 駒澤大学経済学部 教授 吉田 敬一氏



<講演中の様子>



<講師の吉田 敬一氏>

7月20日(月) 御殿場支部設立24周年記念例会がホテル御殿場館21にて開催され、記念講演では、駒澤大学経済学部教授 吉田 敬一氏をお招きし地産・地商・地消をテーマに講演をしていただきました。

はじめに、地域でつくったものを地域で消費することを「地産地消」と言われていますが、大切なのは誰が売っているのか?を意識する事。商っているのが地域外の資本では本当の「地産地消」ではなく、本物の地域の商人(地商)が商ってこそ本物の「地産地消」です。とお話していただきました。

中小企業の存在は大型店・量販店特有の「安売り・コストダウン」追求型ではなく「質」で勝負する事。物質的豊かさが高く、ライフスタイルが多様化している現代社会にこそ、「生活の質」QOL(quality of life)自分の暮らしの質を考えて行くという地域環境作りと、地域に根ざしている中小企業を中心となって街づくりを行っていくことによって地域の記憶が重なっていくから時間軸と歴史が重なり文化が生まれて行く。地域独自の文化に地域環境があわさっていくことで「中小企業のよい経営環境づくり」へと繋がっていきます。

特定の業種に過度に依存・特定のマーケットに過度に依存していた日本経済は、主なマーケットであったアメリカが倒れたことによってこのような経済危機がおきてしまいました。この危機を教訓にバランスの取れた産業基盤づくりと「内需拡大」が叫ばれているが、その担い手は中小企業です。同友会では、国のあり方を考え、その中での中小企業の役割を高らかに掲げるため、非キリスト教文化圏ではじめて本当の意味で豊かな社会(人間が幸せになる社会)を追求する方向へ転換させていこうという運動をしています。

QOLのポイント4つ 「文化・歴史・質を追求した本物づくり」を重んじて、自社が扱っているサービスを購入・利用していただくことによってQOLが高まるかどうか。(本業の本質的役割が提供できているか) お客の立場になって機能・サービスを追加したり見直したりしているか 感性的(デザイン等)機能があるか 自社にまかせて「安心・安全感」があるか?このような会社が多くなれば、個性の集まりとなり、もっと地域が活性化する。

矢後 芳博氏の謝辞では、同友会の価値の再確認・自社の価値を改めて見出すことを考える事ができたとお話をいただき24周年例会が閉会しました。